

## 情報公開内容

**課題名：**転移性肝腫瘍の検出を目的としたガドキセト酸ナトリウム造影 MRI (EOB-MRI) 検査に対する拡散強調画像付加の診断的有用性の検証

**研究責任者：**広島大学病院 放射線診断科 教授 栗井 和夫

### 本研究の意義・目的

大腸癌の肝転移は完全に切除できれば患者の生命予後を延長することができるといわれています。また、その他の悪性腫瘍でも、転移性肝腫瘍の有無により治療方針が大きく変わることが知られています。このように、転移性肝腫瘍の診断は患者さんの予後を左右するため、術前の正確な診断は非常に重要です。現在、転移性肝腫瘍の診断には EOB-MRI が最も有用とされています。また、近年画像機器の進歩により拡散強調画像も画質が向上しており、多くの施設において EOB-MRI 検査において拡散強調像が追加されています。しかしながら、EOB-MRI において拡散強調像を追加することが実際に転移性腫瘍の検出能の向上するかについては十分な検討が行われていません。本研究により、本研究では非侵襲検査である EOB-MRI に拡散強調画像を併用することが転移性肝腫瘍の検出向上に寄与するか否かを検証することを目的とし、それが明らかになることで転移性肝腫瘍の治療方針の決定に大きく寄与することが期待されます。

### 本研究の対象

2009年1月から2012年10月までの間に本院で転移性肝腫瘍の検索目的で、EOB-MRI および拡散強調像が施行された患者さんです。

### 本研究での評価項目

本研究では診療のためにすでに行われている EOB-MRI、拡散強調画像と手術所見・病理学的

所見を用い、EOB・MRI画像と拡散強調画像の併用の有用性について評価します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者の性別、年齢、血液検査結果、既往歴、臨床診断、画像診断、手術所見、病理診断です。

研究の期間は平成 年 月 日(承認日)～平成 28年 3月 31日です。

### **本研究への協力と個人情報保護**

この研究へ情報を提供したくない場合は下記までご連絡下さい。

本研究への情報提供を拒否されてもなんら不利益は生じません。

この研究に参加することで特別な謝礼金などの資金援助はありません。

研究の際には、症例の個人情報は匿名化されますので、個人情報が漏洩することはありません。

学会論文発表は完全に匿名化してなされます（名前、ID、イニシャル、生年月日等の個人を特定できる情報は記載されません）。

### **問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先**

担当者所属：広島大学病院 放射線診断科

職名：医科診療医

氏名：研究担当者 福本航

連絡先電話番号：082-257-5257